平成26年度　学術情報リテラシー教育担当者研修

2014.11.27.　国立情報学研究所

教員と図書館員が連携する学術情報リテラシー教育

長澤　多代
三重大学　附属図書館　研究開発室

本日の発表内容

1. 大学教育改革と大学図書館
2. 学生に対する学修活動の支援（学修支援）
3. 教員に対する教育活動の支援（教育支援）
4. 図書館員による教員へのアプローチ

はじめに

図書館利用教育から情報リテラシー教育への転換

図書館が関与すべき情報リテラシー教育

以前から実施してきた図書館利用法，文献探索法，
データベース利用法を中核にした，
学習・研究情報の探索・評価・活用・提示の方法

図書館内部の事情にもとづくサービスから，
図書館が所属するコミュニティの要請に対応
するサービスへの転換

（野末，2010）

1. 大学教育改革と大学図書館

1.1　大学教育改革の背景

急激な変化を続ける社会

グローバル化や情報化の進展
少子高齢化
知識を基盤とする経営の進展
労働市場や就業状況の流動化
情報流通の加速化や価値観の急速な変化

↓

将来の予測が困難な時代において
大学改革への期待の高まり

（中央教育審議会，2012）

1.2　内部の質保証・外部の質保証

内部の質保証

自己点検・評価ができる大学へ

3つの方針の策定，PDCAサイクル

計画(PLAN)：各学部や学科で観点別に人材養成像(DP)，CPを策定・公開する。
実施(DO)：策定したDPやCPにもとづいて教育を実施する。
評価(CHECK)：教育システム，学習成果等を検証する。授業方法，成績評価基準やその方法に関する事項で，観点別の学習の到達目標を備えたシラバスを作成して公開したり，観点別の学習の到達目標ごとの成績評価基準を策定・公開する。
実行(ACTION)：評価結果にもとづいて改善方策を策定・実行する。

公的な質保証

- 事前規制→事前規制＋事後確認の併用
- 認証評価*

川島啓二，沖裕貴，佐藤浩章，山田剛史「3つのポリシーをどう構築するのか？：学士課程教育の一貫性」〔高等教育開発セミナー〕国立教育政策研究所，2010.9.3.

1.3　3つの方針の策定

①学位授与の方針　（ディプロマ・ポリシー，DP）
②教育課程編成・実施の方針　（カリキュラム・ポリシー，CP）
③入学者受け入れの方針　（アドミッション・ポリシー，AP）

表2 カリキュラム・マップの枠組み②

授業科目名	ディプロマ・ポリシー			
	1	2	3	4
A概論	○	○		
B演習				○
C基礎演習			○	○
・・・				

■各学部や学科でどのような人材を育成するのか

■どのようなカリキュラム（科目群）でその人材を育成しようとするのか

東京女子大学，山形大学，立命館大学文学部

1.4　アクティブラーニングへの転換

<u>これからの目指すべき社会像</u>

「知識を基盤とした自立，協働，創造モデル」

↓

生涯にわたって学び続ける力，
主体的に考える力をもつ人材の育成

学力という従来の概念を超えた新しい能力の必要性

基本的な認知能力：読み書き計算，基本的な知識・スキルなど
高次の認知能力：問題解決，創造性，意思決定，学習の仕方の学習など
対人関係能力：コミュニケーション，チームワーク，リーダーシップなど
人格特性・態度：自尊心，責任感，忍耐力など

学士課程教育の質的な転換
アクティブラーニングへの転換＋学修時間の確保

（松下，2010／久保田，2014／中央教育審議会，2012）

1.4　アクティブラーニングへの転換

能動的学修（**アクティブラーニング**）型の授業への転換

授業のための事前の準備　資料の下調べや読書，思考，学生同士のディスカッション，他の専門家等とのコミュニケーション

授業の受講　教員による直接指導，教員と学生，学生同士の対話など

事後の展開　授業内容の確認や理解の深化のための探求等

＋

事前の準備，授業の受講，事後の展開をとおした
能動的な学修過程に要する十分な**学修時間の確保**が不可欠

「主体的な学修のベースとなる図書館の機能強化」*

（中央教育審議会，2012.）

1.4 アクティブラーニングへの転換

（久保田，2014，p.14）

ため込む学び	つながる学び
教員中心の情報管理 教員が何をどのように学ぶか管理する	**学生中心の学習** 学習者自身が知識を構成する
教科書と教員が唯一の情報源 限られた情報源からの情報を受け取る	**豊かな学習環境** さまざまなツールやコンテンツが活用できる豊かな学習環境の中で学ぶ
知識の受け皿としての学生 ひたすら記憶することが求められる	**学習コミュニティの形成** 多様な視点，多様な価値観を提供し合い，相互に貢献する
事前に用意された知識 個々人の学習ニーズは考慮されず，パッケージ化された知識のみ	**細かな学習ニーズに対応** 多様な学習者のニーズに合った学習を展開する
知識をため込む容器としての学生 知識は，教員から学生へ流れ，学生は知識をため込む容器と捉えられる	**参加型の学習** 水平方向の情報の流れのなかで，相互作用を通じて知を創造する
教師への絶対的な信頼 信頼の置ける知識は教員のみが持つ；学生は無知で信頼がおけない	**協同のための信頼** 多様な視点，多様な価値観のもと，学習者間で情報を提供しあう
教員に知識と権威が集中 教員の指示に従うことで，効果的な学習ができる	**自律的な学習** 学習者が自立的に学び，相互作用を大切にする

1.5　大学生の学修時間：単位制度

1単位は①と②の合計で標準45時間の学修を要する学修内容

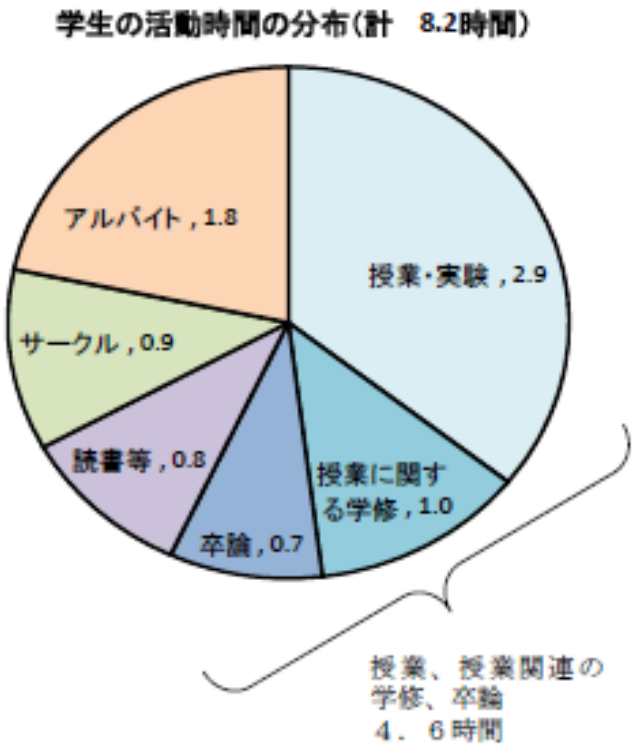
① 教員が教室等で授業を行う時間

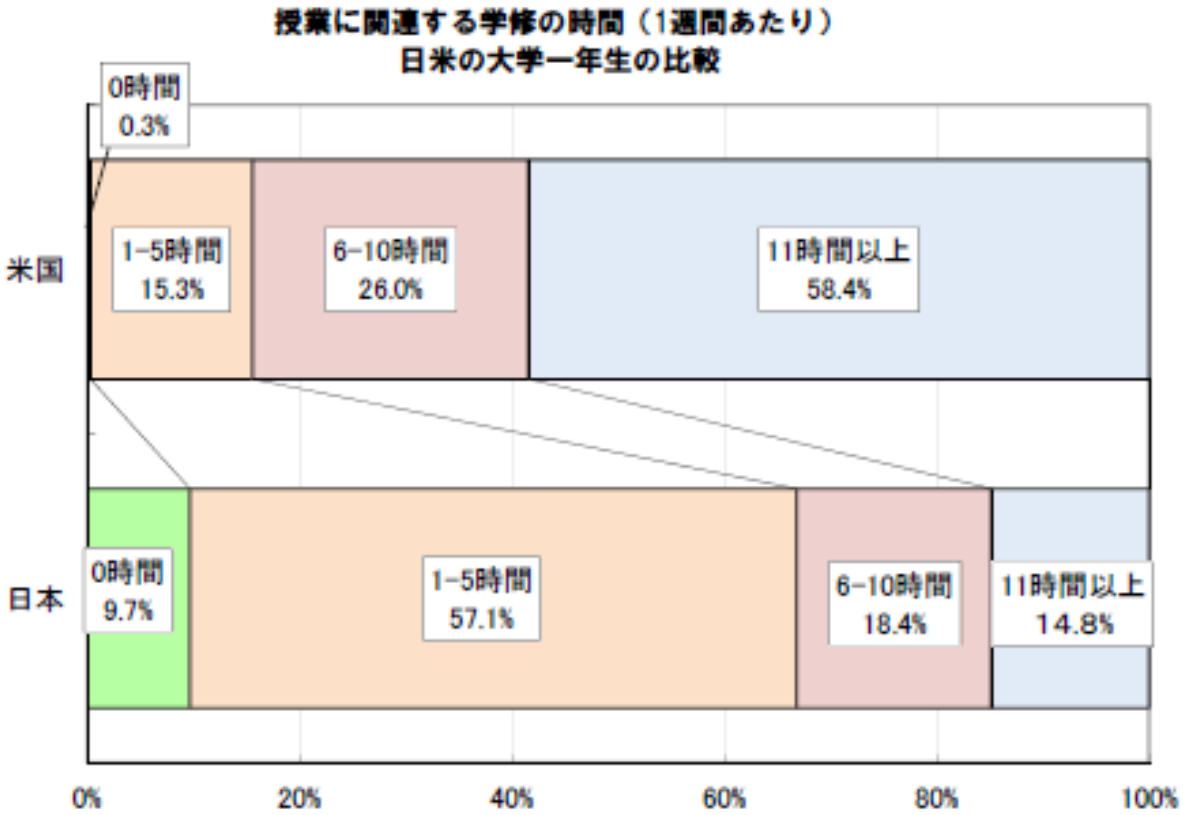
② 学生が事前・事後に教室外において準備学修・復習を行う時間

（大学設置基準　第21条）

<u>45時間＝1週間あたりの学修時間に相当</u>

1.5　大学生の学修時間:学生調査





東京大学　大学経営政策研究センター　『全国大学生調査』(2007, サンプル数44,905人)
(中央教育審議会『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて』2012)

1.6 アクティブラーニング型授業：形態

学生参加型授業	コメント・質問を書かせる／フィードバック，理解度を確認，クリッカー，レスポンス・アナライザー，授業最後／最初に小テスト／ミニレポートなど
各種の共同学習を取り入れた授業	協調学習，協同学習
各種の学習形態を取り入れた授業	課題解決学習，課題探求学習，問題解決学習，問題発見学習
PBLを取り入れた授業	Problem-Based Learning, Project-Based Learning

（溝上，2010）

1.6　アクティブラーニング型授業：質を高める装置

<u>授業</u> ・**書く，話すというアウトプットの活動**：コメント用紙，レポート，ディスカッション，討論，プレゼンテーションなど ・**さまざまな他者の視点を取り入れ，自己の理解を相対化させる**：学生同士，教員，専門家・地域住民などの外部者など ・**宿題・課題を課す**：授業外学習 ・**新たな知識・情報・体験へアクセスさせる**：調べ学習，体験学習 ・**リフレクション**：形成的評価，総括的評価
<u>その他</u> ・**e-learningによる基礎学習・自学自習システム** ・**カリキュラム・サポート**：他の授業科目との連携 ・**学習支援センター・コーナー**：質問，学習相談など ・**学習環境の整備**：図書館，自習室，教室デザインなど

（溝上，2010）

1.7　初年次教育

■高等学校や他大学からの円滑な移行を図り，学習及び人格的な成長に向け，大学での学問的・社会的な諸経験を成功させるべく，主に新入生を対象に総合的につくられた教育プログラム
■初年次学生が大学生になることを支援するプログラム
（中央教育審議会，2008）

651大学（88%）が初年次教育を実施（2011年度）

主な学習内容
・レポート・論文の書き方などの文章作法
・プレゼンテーションやディスカッション等の口頭発表の技法
・学問や大学教育全般に対する動機付け
・将来の職業生活や進路選択に対する動機付け・方向付け

（文部科学省「大学における教育内容等の改革状況について」）

1.8　大学の対応

大学教員の役割

・アクティブラーニング型の授業を設計する。

・授業外学修（予習，復習，課題）について，
　シラバスで十分な指示を与える。

大学・部局の役割

・3つの方針を策定する。

・履修制度の上限を設定する（キャップ制）。

・成績評価を厳格化する。　e.g.　GPA

・授業外の**学修環境**（図書館などの物理的環境，
　eラーニングなどの仮想的環境）を整備する。

1.8　大学図書館の対応

大学図書館の役割

学修成果の向上
- 初年次教育科目における図書館ガイダンス
- 科目関連の情報利用指導（科目関連指導）
- パス・ファインダー

授業外（教室外）の学習時間を確保するための学修支援環境の整備
- ラーニング・コモンズ

FD（ﾌｧｶﾙﾃｨ・ﾃﾞｨﾍﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ）等による教員の支援
- 新任教員オリエンテーション
- 教育開発のワークショップ

SD（ｽﾀｯﾌ・ﾃﾞｨﾍﾞﾛｯﾌﾟﾒﾝﾄ）等による専門性の向上
- 学修支援・教育支援を担当する心構えと資質の開発

1.9 大学図書館の機能の強化に関する提言

『大学図書館の整備について』(審議のまとめ)2010
学生による主体的な学修の成果向上のためには，情報リテラシー教育の実施やラーニングコモンズの整備が必要になることを指摘

『学修環境充実のための学術情報基盤の整備について』(審議のまとめ)2013
図書や雑誌等の学術コンテンツ，ラーニングコモンズ，大学院生・教員・図書館員による学修支援等の観点から方向性を提示

「高等教育のための情報リテラシー基準(ドラフト)」国立大学図書館協会 教育学習支援検討特別委員会，2014
大学生に求められる情報リテラシーや到達目標，教員，図書館員，大学の執行部等の役割などを提示

2. 学生に対する学修活動の支援（学修支援）

2.1　科目関連指導とは

科目関連指導(course-related instruction)

「ある学科目の学習・研究の課題において必要とされる情報探索法・整理法・表現法を学ばせる指導方式を指す。通常，教員から要請されて図書館員がその授業時間の一部を使って指導を行う。」

（日本図書館協会・図書館利用教育委員会，1998）

教員と図書館員が，事前に打ち合わせを重ねながら
科目関連指導を設計することによって，
高い学習成果を得ることができる

2.2 科目関連指導の到達目標

- 学生が，図書館や図書館員が自分たちの学修活動を支援する機関（職員）であることを認識する。
- 学生が，情報を利用するプロセス（情報探索，情報整理，情報表現）の全体像を理解する。
- 学生が，情報を探索するのに有用な道具（目録やデータベースなど）を理解し，利用できる。

2.3　科目関連指導の主な学習内容

図書館の三大資源：

一次資料（図書，学術雑誌），二次資料，図書館員

データベースの検索法：

OPAC（オンライン蔵書目録）

図書，雑誌論文，新聞記事，百科事典

論理演算：

AND検索，OR検索，前方一致，後方一致

レファレンス・サービス

リクエスト制度

複写・取り寄せ（ILL）サービス

引用，参考文献の書き方，著作権，剽窃（ひょうせつ）

2.4 科目関連指導の事例（調査日：2005.9.19.）

アーラムカレッジ「アーラムセミナー」（1年次）60分

13:00	**図書館員の自己紹介**：オフィスの場所，連絡先
13:05	**図書館で利用できる情報資源**： 一次資料，二次資料（参考図書），データベース， パスファインダー
13:15	**索引の使用法，OPACを用いた情報探索**： 検索式の作成法，取り寄せ（ILL）の方法
13:20	**参考図書の書架配列と請求記号**：検索結果の評価
13:23	**データベースの検索法，文献の予約** OPAC（著者名検索），雑誌記事データベース 雑誌と学術雑誌の違い，文献情報管理ソフトウエア
13:38	教員によるまとめ

（長澤，2007）

2.5 科目関連指導の設計

① 図書館員が，学期の始まる2-3週間前に，講義要綱から支援対象とする授業科目を抽出する。

② 図書館員が，①の担当教員に，図書館員による支援の必要性を確認し，実施日を決定する。

③ 図書館員は，授業科目のシラバスを読んだり，教員と打ち合わせをしたりして，課題のテーマについて理解を深め，これに関する一次資料や二次資料，データベースを検討してパス・ファインダーを作成し，Web上で公開する。

④ 指導当日には，図書館員が，パス・ファインダーを示しながら，情報の探索法，情報の入手法について説明する。

（長澤，2007）

2.6　科目関連指導の実施の要点

- 課題探求型の課題（レポートやプレゼンテーション）を与える授業科目を重点的に支援する。
- 「教える好機（teachable moment＝テーマを設定した直後）」に支援を実施する。
- 一般的なテーマではなく，授業科目で与えられた課題のテーマに関する支援を実施する。
- 各授業科目に“カスタマイズ”した支援をデザインする。
- 同じ教員を繰り返し担当し（MYライブラリアン），対象となる授業科目の学習内容に詳しくなる。
- 科目関連指導で学修した内容，図書館や図書館員の教育的役割について，教員が授業のなかで繰り返し学生に伝える。

（長澤，2012b）

2.7　科目関連指導：教員にとっての利点

①科目関連指導を受けた学生は質の良い課題を提出するので，成績評価の作業が楽になった。

②専門分野に関する新しい知識を入手し続けるには多大な労力が必要になる。科目関連指導によって，教員も，専門分野の最新動向を知ることができる。

③紹介されたデータベースの中で，今回初めて知ったデータベースがあった。今後，活用したい。

①②アーラム・カレッジの教員，③三重大学の教員

（Hardesty，2003）

3. 教員に対する教育活動の支援（教育支援）

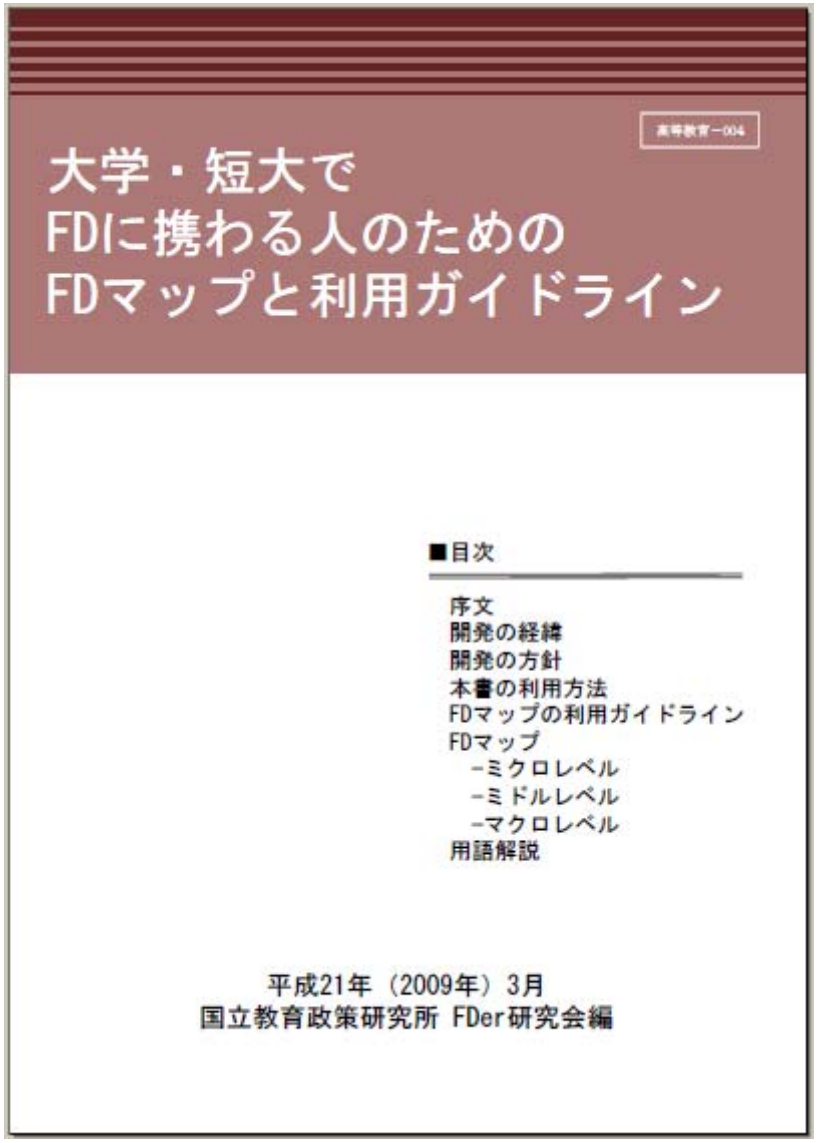
3.1　教育支援の目標と方法

主な到達目標

- 教員が，図書館が学習・教育支援機関であることを認識する。
- 教員が，課題探求のプロセスにおける情報利用の注意点と対策について理解する。
- 教員が，課題探求型の授業スタイルを支援する教材を作成できるようになる。
- 教員が，自身の情報リテラシーを向上させる。

教員を図書館の利用者（支援対象者）と捉えて，サービスを設計，提供する

3.2 FDマップと利用ガイドライン①


高等教育－004

大学・短大で
FDに携わる人のための
FDマップと利用ガイドライン

■目次

序文
開発の経緯
開発の方針
本書の利用方法
FDマップの利用ガイドライン
FDマップ
－ミクロレベル
－ミドルレベル
－マクロレベル
用語解説

平成21年（2009年）3月
国立教育政策研究所 FDer研究会編

＜主な内容＞

- FDマップの利用ガイドライン
- FDマップ
  - ミクロレベル
  - ミドルレベル
  - マクロレベル
- 用語解説

国立教育政策研究所のFDerプロジェクトのページに申請書あり
http://www.nier.go.jp/koutou/projects/fder/index.html

3.2 FDマップと利用ガイドライン②

横軸(レベル):FDを実施する対象
縦軸(フェーズ):FDを実施する対象者の段階

レベル / フェーズ	ミクロ 個々の教員 授業・教授法			ミドル 教務委員 カリキュラム・プログラム			マクロ 管理者 組織の教育環境・教育制度		
	目標	方法	評価	目標	方法	評価	目標	方法	評価
Ⅰ.導入（気づく・わかる）									
Ⅱ.基本（実践できる）									
Ⅲ.応用(開発・報告できる)									
Ⅳ.支援（教えられる）									

3.3 新任教員の支援

（長澤，2007）

新任教員への図書館サービス案内状の送付（アーラム・カレッジ）	
内容	着任が決まった教員に図書館のサービスを紹介した手紙を送付する。 授業で必要な文献があればいつでも購入できること，図書館がいつでも支援できることを伝える。
新任教員オリエンテーション（三重大学，長崎大学）	
内容	新任教員オリエンテーションの一環として，「図書館の利用法」についてガイダンスをする。 短時間で，附属図書館がいかに学生の学習活動や教員の教育活動を支援できるのかを伝える。 附属図書館のアピール・ポイント（例として，コレクション，建物やスペース，歴史など）を伝えるのもよい。

3.4　教育開発のワークショップ

（長澤，2007）

教育開発ワークショップ（アーラム・カレッジ）	
説明	1日規模のワークショップによって，教員と図書館員がレポート課題など課題探求型の課題の設定や指導方法について検討する。
目的	•教員が情報資源や課題探求型の課題について理解を深める。 •教員と図書館員，教員同士が情報交換をする機会を設ける。
内容	•新しい情報資源と新しい課題 •研究プロセスの指導 •特定の分野の情報探索法 •剽窃（ひょうせつ）

3.4　教育開発のワークショップ

FDワークショップ（長崎大学）	
説明	2時間のワークショップによって，図書館員が教員にパス・ファインダーの構成と多様なデータベースを説明し，これをもとに教員がパス・ファインダーを作成する。
目的	•教員が，学生の情報探索を支援するツールとしてパスファインダーの存在を知る。 •教員が，パスファインダーの役割や構成，情報探索の道具について理解を深める。 •教員と図書館員が顔を合わせる機会を設ける。
内容	パスファインダーの説明と演習 各種データベースの説明

3.5 FDガイド

必要な情報にさっとアクセスできるように,
トピック別に背景や要点を簡潔にまとめた1枚もののガイド

三重大学附属図書館版 http://www.lib.mie-u.ac.jp/meipl/LibCon.html
名古屋大学版 http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/facultyguide/

3.6　教育支援の実施の要点

- 新任教員へのアプローチに重点を置く。
- 図書館や図書館員が“協力的である”，“親しみやすい”ことを印象づける。
- “教員が教員を支援する”場を設定する。
- “いつでもどこでも”支援する。
- “大学や学内の学習・教育支援組織が計画するプログラム”の一部に教育支援を組み入れる。
- FDを担当するセンターや委員会と連携して教育支援を企画・実施する。

4. 図書館員による教員へのアプローチ

4.1　教員と図書館員の役割

- 教員の役割：学生が学修目標を達成するために，効果的な教育・学修のプロセスを設計，実行，評価

- 図書館員の役割：教育・学修プロセスの成果の向上を支援する図書館サービスの“ファシリテーター”

教員と図書館員が連携して，
高い学修成果を得られる科目関連指導，
アクティブラーニングを設計する

（長澤，2012a）

4.2　大学全体のニーズの把握

大学全体の教育計画
　全学の教務委員会の議事の確認

「シラバス」
→学生用の推薦図書ほか学修支援の案内をする
「学習スペース」
→ラーニング･コモンズに関する情報を提供する。

アプローチの対象：
　全学の学務部，教務課，理事（教育担当）

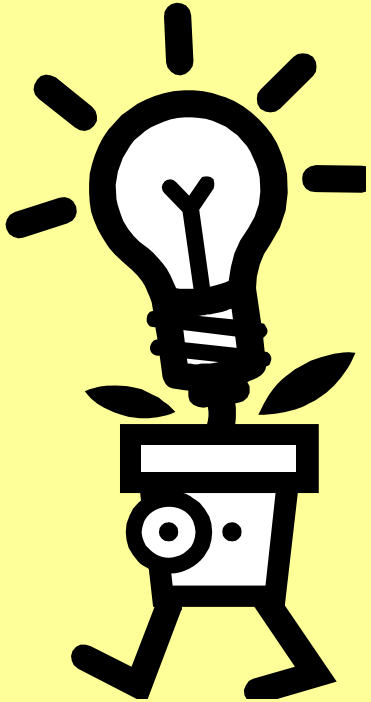
4.3　各部局のニーズの把握

3つの方針の「ディプロマ・ポリシー」
　　図書館と関連するポリシーの確認

「課題探求」等
　→課題探求のプロセスと情報利用の
　　関係に関する情報を提供する。
「初年次教育」
　→図書館ガイダンスの案内をする。

アプローチの対象：
　　各部局の部局長，教務委員，FD委員

課題探求のプロセス



①テーマを設定する。

②情報探索の道筋を設定する。

③情報を探索する。

④情報を評価（取捨選択）・統合する。

⑤情報を用いて表現する。

⑥成果物とプロセスを評価する。

4.4　教員団のニーズの把握

大学全体の学修・教育支援
　　図書館との関連が深い支援の確認

「新入生オリエンテーション」「新任教職員研修」
→図書館によるオリエンテーションの実施を提案する。
「FDワークショップ」
→図書館による企画を提案する。

アプローチの対象：
　FD担当者，FD委員会の委員，
　理事（教育担当），人事課

4.5　教員のニーズの把握

シラバス（講義要綱）
　図書館との関連が深い科目の確認

「レポート」「プレゼンテーション」
→科目関連指導の案内をする。
→パスファインダーの作成を提案する。
→レファレンスその他図書館サービスを紹介する。
→情報利用プロセスと図書館の関係に関する情報を提供する。

アプローチの対象：個々の教員

4.6　大学教育における教員と図書館員の連携構築

		Earlham College USA	University of Michigan USA	Tampere University Finland	Queen's University Canada	Western University* Canada
連携の対象	個々の教員	○	○			
	カリキュラム委員	△	△	○	○	
	全学の執行部	△	△	○		○
	教育開発の専門職員			○	○	○
連携の戦略	非伝統的な図書館員の配置		○	○		○
	コミュニティにおける社会関係の構築	○	○	×		○
	カリキュラムへの統合	△	△	○	○	
図書館の条件	図書館管理職のリーダーシップ	○	○	○		○
	ファカルティの地位	○	○		○	
	特定の学問分野の学位		○		△	
	図書館員の資質開発ー指導方法論			○	○	
大学の条件	小さなコミュニティ	○	○	×	○	
	教育の質保証への対応			○	○	○

*University of Western Ontarioが名称変更

4.7　教育者としての図書館員

- 自らが教育に携わっていることを強く意識する。
- 学修支援や教育支援の担当を，付加業務ではなく，主要な業務として位置づける。
- 学修支援や教育支援の担当者が，その業務に集中できる環境を整備する。

  単純作業を担当する支援スタッフの雇用
- 図書館の外で活動する。

  全学・部局の教務関係の会議に陪席する
  学内の委員会の委員になる

  授業を担当する
- 学内外の大学教育改革の動向を把握する。
- 教授スキル（授業デザイン，授業運営）を向上させる。

  学内外のFD／SD関係のワークショップに参加する

大学教育に関する情報源

学会

日本高等教育学会　http://www.gakkai.ne.jp/jaher/

大学教育学会　http://www.daigakukyoiku-gakkai.org/

初年次教育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jafye/index.html

認証評価

認証評価制度
http://portal.niad.ac.jp/library/1179798_1415.html

定期刊行物

上記の学会誌，『IDE・現代の高等教育』，『大学と学生』，『カレッジ・マネジメント』，『BETWEEN』，『教育学術新聞』

ASAGAO kyoto-uメーリングリスト　http://kyoto-u.s-coop.net/asagao/

京都大学高等教育研究開発推進センターに関する最新の情報，国内の大学教育関係の催し等に関する情報を得ることができます。

東北大学高度教養教育・学生支援機構
大学教育支援センター
「大学教職員のためのマネジメント・プログラム」*

http://www.he.tohoku.ac.jp/CPD/（参照2014-10-23）

主な参考文献①

■中央教育審議会『学士課程教育の構築に向けて』(答申)2008. http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm(参照　2012-10-14)

■中央教育審議会『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて』(答申)2012, http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm （参照　2012-10-14)

■Hardesty, Larry ed. *Bibliographic Instruction in Practice: A Tribute to the Legacy of Evan Ira Farber*. Pierian Press, 1993, 157p.

■Julien, Heidi and Lisa Given. "Faculty-Librarian Relationships in the Information Literacy Context." *Canadian Journal of Information and Library Science*, 27(3), 2003, p.65-87.

■国立教育政策研究所，日本高等教育開発協会(JAED)主催の高等教育開発セミナーの配布資料(2010.9.3.)

■国立教育政策研究所　FDer研究会編『大学・短大でFDに携わる人のためのFDマップと利用ガイドライン』国立政策研究所，2009.3，26p.

主な参考文献②

■久保田賢一「高等教育を取り巻く環境の変化を考える」，岩崎千晶編著.『大学生の学びを育む学習環境のデザイン：新しいパラダイムが拓くアクティブ・ラーニングへの挑戦』関西大学出版部，2014，p.3-16.

■松下佳代『<新しい能力>は教育を変えるか：学力・リテラシー・コンピテンシー』ミネルヴァ書房，219p.

■溝上慎一「教育ing：アクティブ・ラーニング」河合塾全国進学情報センター『Guideline』2010.11，http://www.keinet.ne.jp/gl/10/11/kaikaku_1011.pdf（参照　2014-11-17）

■溝上慎一『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂，2014，196p.

■文部科学省．大学における教育内容等の改善状況について．平成23年，http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/1341433.htm（参照2014-11-12）

■文部科学省．大学図書館における先進的な取り組みの実践例．http://www.mext.go.jp/a_menu/kaihatu/jouhou/1341374.htm（参照2014-11-12）

主な参考文献③

■長澤多代「アーラム・カレッジの図書館が実施する学習・教育支援に関するケース・スタディ」『Library and Information Science』 No.57, 2007, p.33-50.

■長澤多代「大学教育における教員と図書館員の連携を促す図書館員によるつながり方の開拓：アーラム・カレッジのケース・スタディをもとに」『日本図書館情報学会誌』Vol.58, No.1, 2012a, p.18-34.

■長澤多代「大学教育における教員と図書館員の連携を促すカスタマイズ型の学習支援：アーラム・カレッジのケース・スタディをもとに」『日本図書館 情報学会誌』Vol.58, No.4, 2012b, p.185-201.

■永田治樹ほか. 今後の「大学像」の在り方に関する調査研究（図書館）報告書：教育と情報の基盤としての図書館. 国立大学法人筑波大学, 2007.3, 157p. https://www.kc.tsukuba.ac.jp/div-comm/pdf/future-library.pdf（参照 2014-11-17）

■野末俊比古「情報リテラシー教育をめぐる理論」日本図書館協会図書館利用教育委員会編, 日本図書館協会, 2010, p.13-24.

■初年次教育学会編『初年次教育の現状と未来』世界思想社, 2013, 270p.

謝辞

本発表で紹介した事例の調査・研究については，次の助成を受けています。

● アーラム・カレッジ：科学研究費補助金（若手研究B）「ファカルティ・ディベロップメントの視点を取り入れた大学図書館の教育支援機能研究」（2004年度～2005年度）

● ミシガン大学：科学研究費補助金（若手研究B）「教育活動を背景とする教員と図書館員の協力関係：ミシガン大学の事例研究をもとに」（2006年度～2007年度）

● タンペレ大学：「大学教育における教員と図書館員の連携に関する比較研究：フィンランドの事例研究」日本学術振興会・特定国派遣研究者（フィンランド・長期）（2013年度）

● クイーンズ大学：東北大学高等教育開発推進センター・大学教育支援センター「大学教育マネジメント人材育成プログラム（Queen's-Tohoku Joint Program for University Education Managers and Developers）」教育関係共同利用拠点（国際連携を活用した大学教育力開発の支援拠点）「三重大学附属図書館が実施する学習支援・教育支援：教員と図書館員の連携の構築を中心に」（2011 年度）／科学研究費補助金（基盤研究C）「大学教育における教員と図書館員の連携の構築に関する比較研究」（2012 年度～2014 年度）

● ウエスタン・オンタリオ大学：科学研究費補助金（若手研究B）「大学教育における教員と図書館員の連携：ウエスタン・オンタリオ大学のケーススタディ」（2009年度～2010年度）

連絡先

長澤　多代（NAGASAWA Tayo）

〒514-8507
三重県津市栗真町屋町1577
三重大学　附属図書館　研究開発室

URL　http://www.lib.mie-u.ac.jp/r_and_d/info/nagasawa.html